

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
介護総合演習Ⅳ Care Practice Support Ⅳ		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(介護福祉士養成課程 必修)	介護福祉士養成課程の2年生のみ履修可
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
介護総合演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
久保 由佳	福祉棟2階	月～金 (授業時間を除く)		授業中に指示します
授業の概要				
介護総合演習Ⅳでは、実習で学んだことを通して、さまざまな施設で生活する利用者を総合的に捉え、生活の場を踏まえた介護実践について理解を深める。また、既習実習の振り返りを通して、次段階実習における自己の課題を明確にすることを目的とする。さらに、介護過程を展開する実習に向けて、不安なく実習に臨めるよう準備を行う。				
授業の目標				
①福祉用具の定義、意義、種類、選択および活用方法を説明できるようにする。 ②利用者の状態に応じた福祉用具を試作できるようにする。 ③訪問介護のサービス内容や留意点を説明できるようにする。 ④これまでの実習や既習の生活支援技術を振り返り、次段階実習の課題を明確にできるようにする。 ⑤自己の介護観を確立できるようにする。				
授業の方法				
講義、演習、視聴覚教材の視聴、個人およびグループワーク、実習オリエンテーションおよび反省会等、多様な授業形態である。				
学習の成果(学習成果)				
①介護過程を展開する実習に向けて、他科目で学んだ知識・技術を確認し、自己を客観的に見つめ直すことで、次段階実習の課題を明確にすることができる。 ②訪問介護に関する知識や留意点を踏まえ、訪問介護実習を行い、サービス内容や支援のあり方について述べることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス(授業のねらいと進め方・成績評価の方法など)、2年次の介護実習について説明 福祉用具試作品発表会について説明(発表方法、評価方法等)			
第2回目	居宅介護実習Ⅱの準備(実習方法と留意点を説明、実習記録一式配布) 居宅介護実習先の理解(訪問介護について、視聴覚教材「訪問介護実習」の視聴)			
第3回目	利用者の生活の場に対応する介護の理解①:福祉用具に関する知識の確認 視聴覚教材「福祉用具 用具導入のポイント編」の視聴			
第4回目	施設介護実習Ⅱの準備(実習先希望調査票の配布・説明)			
第5回目	利用者の生活の場に対応する介護の理解②:事例に応じた福祉用具の活用			
第6回目	介護のあり方を考える①:グループ討議			

第7回目	介護のあり方を考える②：発表	
第8回目	施設介護実習Ⅱに関する知識の確認①：実習日誌の書き方を振り返る	
第9回目	施設介護実習Ⅱに関する知識の確認②：介護過程の展開における専門知識（知識の必要性和ワークの進め方） 【レポート1：専門知識調べ、提出期限は授業で指示する】	
第10回目	施設介護実習Ⅱに関する知識の確認③：介護過程の展開における専門知識（個人ワーク）	
第11回目	施設介護実習Ⅱの準備（実習関連書類の配布・記入、「課題と抱負」の作成について説明）	
第12回目	施設介護実習Ⅱに関する知識の確認④：国家試験の内容を含めた学習	
第13回目	施設介護実習Ⅱに関する知識の確認⑤：国家試験の内容を含めた学習・グループワーク	
第14回目	施設介護実習Ⅱの準備（検便容器の配布・説明） 居宅介護実習Ⅱ 反省会・まとめ 【レポート2：実習の振り返り（事前に記入し持参）、提出は授業終了時】	
第15回目	施設介護実習Ⅱの準備（実習記録一式を配布）、授業のまとめ、介護福祉士国家試験受験申込みについて説明 *施設介護実習Ⅱオリエンテーションおよび反省会は別日程にて実施	
事前・事後学習	介護総合演習Ⅰ・Ⅱの内容の他、生活支援技術や介護過程の展開等、各授業での学習内容を復習すること。 実習各期の目標と方法を確認しておくこと。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	S評価は、①授業で使用する教材を準備し、必要なことはノートにとっている。②課題や実習関連書類の提出期限を守っている。③グループワークに積極的に参加し、自分の考えを述べている。
レポート	10%	第14回目にレポートを課す。S評価のレポートは、訪問介護実習を振り返り、学びや気づきが具体的に記述されていること。テーマに沿って自分の考えがまとめられていること。自己の課題が明確にできていること。
調査報告書		
小テスト		
試験	20%	介護福祉士国家試験模擬試験を実施する。模擬試験結果が90点以上の場合、S評価とする。
発表内容（態度含む）	40%	福祉用具試作品と発表態度を評価する。評価は学生と教員で行う。S評価は、①アイデアがよく、適切なネーミングであること。②安全かつ実用的・経済的であること。③わかりやすく、説得力のある説明であること。
その他	10%	介護過程を展開する利用者をイメージし、必要な専門知識等を具体的に調べる（第9・10回目）。S評価は、利用者の状態像を具体的に挙げ、必要な専門知識等を詳細に調べ、わかりやすくまとめられていること。
教科書と参考図書		
新・介護福祉士養成講座 第10巻「介護総合演習・介護実習」中央法規出版 介護実習の手引き その他、既習のテキストや参考書、授業での配布資料を活用する。		
履修上の留意点・ルール		
●実務経験（職種：介護福祉士、職歴：通算6年） 個人およびグループワークが中心である。積極的に意見交換し学びを共有して欲しい。実習用の証明写真を準備する。費用は自己負担となる。撮影に関する詳細は授業内で説明する。実習時期や準備状況に応じて、授業内容を交替する場合がある。飲食物や携帯電話等、教材以外のものは机上に置かない。やむを得ず欠席した場合は、速やかに届け出を提出すること。		